様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 １７ 日現在

機関番号：３５３０７
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ０５５９１・１９Ｋ２０７９９

研究課題名（和文）和歌を用いた平安期『源氏物語』享受の解明に関する研究

研究課題名（英文）How the Genji Monogatari was received during the Heian Period: Evidence using Waka Poetry

研究代表者
瓦井　裕子（Kawarai, Yuko）

就実大学・人文科学部・講師

研究者番号：２０８２３９６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、平安期和歌を中心的資料として、『源氏物語』の享受実態の解明を目指した。
『源氏物語』は、鎌倉初期には歌人必読の書として称揚されたことが知られる。そこに至るまでの平安期にも、盛んに享受が行われ、地位を確立していったことが想定されるが、平安期の享受は直接的な資料がないためにほとんど解明されてこなかった。本研究では、『源氏物語』を摂取した和歌を享受資料として積極的に活用することにより、『源氏物語』享受の担い手・方法・伝播の在りようなどを詳らかにし、成立直後から平安後期までの享受実態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『源氏物語』は、文学はもちろん、絵画、芸能、服飾など、日本の広範な文化において広く享受され、さまざまな影響を及ぼした作品である。その享受の発端がいかなるものであり、なぜそのような影響力を持つに至ったかを解明することは、文学や文化を考える上で重要な指標となる。本研究は、『源氏物語』成立後200年間の享受の実相を明らかにし、鎌倉期以降の享受がどのような基盤の上に成立したかについて新たな視座をもたらした。

研究成果の概要（英文）：Using waka poetry as the main source material, this study examines how the Genji Monogatari (“The Tale of Genji”) was received during the Heian period.
It is known that the Genji Monogatari was recognised as a must-read book for poets in the early Kamakura period. It is assumed that it must have been widely enjoyed and established its position in the years leading up to the Kamakura period. However, due to the absence of direct materials, the book’s reception during the Heian period has not been confirmed. Using waka poetry by poets who had read the Genji Monogatari, this study clarified in detail who read the book, how it was enjoyed, and how it was circulated, to understand how the Genji Monogatari was received from immediately after it was written until the late Heian period.

研究分野：中古文学

キーワード：源氏物語　和歌　源氏物語享受　享受史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## １．研究開始当初の背景

『源氏物語』は、日本のあらゆる文化に多大な影響を与えた点において、最も重要な文学作品の一つである。各時代において『源氏物語』をいかに享受してきたかという問題もまた、我が国の文化を紐解く上での不可欠な視点である。

従来、『源氏物語』享受の研究は中世以降に偏って行われてきた。『源氏物語』の伝本や注釈書などの享受資料が鎌倉期以降のものしか現存せず、本格的な享受は鎌倉以降にしか発生しないと考えられていたためである。

それに対し、研究代表者は、平安期に詠まれた和歌の中にも『源氏物語』を摂取するものが相当数存在することを明らかにしてきた。従来、平安後期物語が平安期のほぼ唯一の享受資料とされてきたが、これらの成立年代・作者は未詳で、享受史・文学史の中に位置づけるには圧倒的に情報が不足している。その点、和歌は詠者・詠歌年・詠歌状況などの詳細な情報を備えていることが多く、かなり具体的な享受実態を解明しうる。『源氏物語』摂取歌（以下、源氏摂取歌）は、最も早い享受の実態を解明しうる資料として豊かな可能性を有している。源氏摂取歌を『源氏物語』の享受資料と位置付け、検討することにより、鎌倉期に『源氏物語』享受が花開く前の実相を解明できる研究上の可能性がある、という想定が、研究開始当初の背景であった。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、『源氏物語』成立直後の享受実態を、和歌を通して明らかにすることにある。平安期の源氏摂取とそれを取り巻く文化的背景を把握することにより、『源氏物語』享受史を考える上での基盤的視座を提示する。

『源氏物語』享受史を研究する上で、享受の初発期にあたる平安期の実相の解明は不可欠である。本研究では、平安期に相当数の源氏摂取歌があることを指摘し、和歌を新たな享受資料として位置付けて検討を行うことにより、広範な『源氏物語』享受の実態を紐解く鍵とする。本研究により、平安期の『源氏物語』享受が中世以降の享受へとどのように継承され、変容していったのかという享受史を通観する上での架け橋となることを目指した。

## ３．研究の方法

本研究では、源氏摂取歌の分析によって『源氏物語』享受史の黎明期の実相を浮かび上がらせることにより、『源氏物語』がどのように享受され、文化的影響力を持つに至ったかという通史的研究の基盤となる視座を提供した。

具体的には、以下の通りである。

### １．後期摂関期における『源氏物語』享受

平安期から鎌倉期に至る享受の中で、特に重視したのが後冷泉朝（1045-1068）である。後冷泉朝は、第一の文化人・源師房が源氏摂取を推進する一方、一般的には源氏摂取が一過性の流行に留まる。師房自身も源氏摂取を他者には推奨するものの、自らは行わない、また他方では『源氏物語』由来の行事が宮中でも行われたという、『源氏物語』享受に対する躊躇と積極性の微妙な揺らぎが見られる時代であることが、研究代表者のこれまでの研究から明らかになっている。後冷泉朝を『源氏物語』享受の黎明期と位置づけ、以下の計画に基づいて実相を解明することを試みた。

本研究では、特に祐子内親王家歌合を中心とした研究を行った。祐子内親王家歌合は、後期摂関期の中でもとりわけ源氏摂取が流行した永承年間を中心として行われている。さらに、祐子内親王は、歌合を史上最も多く開催して源氏摂取の主要な拠点ともなった禖子内親王の同母妹であることから、その関連性についても注目されるところである。

### ２．『為信集』の成立年代

『為信集』は、平安中期、花山・一条朝に成立したとされる家集である。『為信集』は、『源氏物語』と多くのモチーフが共通し、『源氏物語』との密接な関係性がうかがわれる。『為信集』の紹介時、紫式部の外祖父・藤原為信の家集とされ、『源氏物語』が『為信集』から発想や表現をとったとされた。一方、これを別人の家集とし、『源氏物語』の最初期の享受の様相があらわれていると考える研究もある。

いずれの立場においても、『為信集』が平安中期、花山・一条朝の成立であるということが前

提として共有されてきた。本研究では、『為信集』の表現や歌題などを検討することにより、その成立年代の再検討を行った。

３．『源氏物語』と同時代和歌との関連
　『源氏物語』内の表現については、まま恣意的な解釈が行われてきた。しかし、『源氏物語』の表現は、当時の言語文化の中から生じているのであり、当時の表現と無関係であるはずがない。そこで、本研究では、同時代和歌に注目し、その表現との関連において『源氏物語』を解釈することを試みた。
　特に、次を取り上げた。
　　(1)　葵上死去後、六条御息所から源氏に送られた弔問歌が、手渡しではなくさし置くという方法によってなされたこと
　　(2)　源氏が玉鬘に懸想する一連の場面において頻出する、竹が風に吹かれる情景

４．研究成果

１．後期摂関期における『源氏物語』享受　[2-1]　[3-2]
　後冷泉朝、源氏摂取は歌合において流行しており、私的な性格の強い歌合では誰もが源氏摂取を行いうる状況であった。一方、藤原頼道が実質的な主催者であった祐子内親王家歌合などの歌合においては、頼通に近い歌人たちが源氏摂取を行う様相が看取された。このことから、公的性格の強い歌合においては、『源氏物語』を摂取することに対しても、主催者である頼通や中宮彰子に対する近さというのが、一つの条件となっていた可能性がある。
　後冷泉朝歌合は、院政期歌合への過渡期となる重要な通過点であるため、この時代に歌人たちが歌合という場においてどのような意識をもって源氏摂取を行ったかをさらに明らかにしていくことが求められる。

２．『為信集』の成立年代　[1-3]　[1-4]
　『為信集』は平安中期、花山・一条朝の成立であるという前提に対し、本研究では『為信集』の表現や歌題などを検討することにより、この家集の成立 13 世紀前半である可能性を示した。この家集は、従来考えられてきたような平安中期の成立と見るのではなく、院政期の物語享受という広い観点の中で捉えられるべきである。このころは元久元年本『隆信集』や『隆房集』などといった物語的・虚構的な家集が成立した時期でもあり、『為信集』もその一環と位置づけられる可能性を提示した。その在り様は、新古今時代の『源氏物語』享受の方法とは大きく異なっており、この時期の『源氏物語』享受の一様相を伝えるものとして非常に興味深い姿を見せている。

３．『源氏物語』と同時代和歌との関連　[1-1]　[1-2]　[3-1]　[3-3]
　２．研究の方法に述べた各事項の検討を、平安期和歌、特に同時代和歌に用いられる表現との関連の中で行った。いずれも相応の用例数を同時代和歌やその詞書の中から見出すことができ、さらに、それぞれの事柄について、それが行われる際の特定の状況が存在することが明らかとなった。これらは、『源氏物語』の同時代読者には当然前提として把握されていたことであったが、現代ではそれが分からなくなってしまっている。それに加え、『源氏物語』内部のみで解釈しようとすることよって理解が妨げられてきたのであったが、本研究によって同時代的な理解を促しえた。

【１．論文】
[1-1]　瓦井裕子「六条御息所の弔問歌――さし置くという行為の意味するもの――」，桜井宏徳・中西智子・福家俊幸編『藤原彰子の文化圏と文学世界』，武蔵野書院，pp209-233，2018 年 10 月

[1-2]　瓦井裕子「『源氏物語』胡蝶巻における風に吹かれる竹」，『アジア遊学』，勉誠出版，223 号「日本人と中国故事」，pp69-84，2018 年 9 月

[1-3]　瓦井裕子「『為信集』成立年代の再検討」，『中古文学』，中古文学会，第 104 号，pp112-126，2019 年 11 月

[1-4]　瓦井裕子「伝坊門局筆本「為信集」の諸問題」,『就実表現文化』, 就実表現文化学会, 第14号, pp1-24, 2020年1月

【２．国際要旨集】

[2-1]　瓦井裕子「後期摂関期歌合における『源氏物語』摂取」,『Future Japanology』Vol.1, 2020年5月

【３．口頭発表】

[3-1]　瓦井裕子「『源氏物語』少女巻の風に吹かれる竹」, タイ国日本研究国際シンポジウム2018, 於：チュラ―ロンコーン大学（タイ王国, バンコク), 2018年8月25日

[3-2]　瓦井裕子「後期摂関期歌合における『源氏物語』摂取」, 同徳・松陰日本語研究学会2019, 於：同徳女子大学校（ソウル, 大韓民国), 2019年1月27日

[3-3]　瓦井裕子「陽明文庫本源氏物語の表現世界とその摂取歌」, 第303回大阪大学古代中世文学研究会, 於：大阪大学, 2019年12月22日

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>瓦井裕子 | ４．巻<br>104 |
| ２．論文標題<br>『為信集』成立年代の再検討 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>中古文学 | ６．最初と最後の頁<br>112-126 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>瓦井裕子 | ４．巻<br>14 |
| ２．論文標題<br>伝坊門局筆本「為信集」の諸問題 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>就実表現文化 | ６．最初と最後の頁<br>1-24 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>瓦井裕子 | ４．巻<br>- |
| ２．論文標題<br>六条御息所の弔問歌――さし置くという行為の意味するもの―― | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>桜井宏徳・中西智子・福家俊幸編『藤原彰子の文化圏と文学世界』 | ６．最初と最後の頁<br>209-233 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>瓦井裕子 | ４．巻<br>223 |
| ２．論文標題<br>『源氏物語』胡蝶巻における風に吹かれる竹 | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>アジア遊学 | ６．最初と最後の頁<br>69-84 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>瓦井裕子 |
| 2．発表標題<br>陽明文庫本源氏物語の表現世界とその摂取歌 |
| 3．学会等名<br>第303回大阪大学古代中世文学研究会 |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>瓦井裕子 |
| 2．発表標題<br>後期摂関期歌合における『源氏物語』摂取 |
| 3．学会等名<br>同徳・松陰日本語研究学会2019（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>瓦井裕子 |
| 2．発表標題<br>『源氏物語』少女巻の風に吹かれる竹 |
| 3．学会等名<br>タイ国日本研究国際シンポジウム2018 |
| 4．発表年<br>2018年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
| --- | --- |